

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年8月20日

【評価実施概要】

事業所番号	南九州市指定 第4692600028号		
法人名	社会福祉法人 滴々会		
事業所名	グループホーム 音野舎		
所在地	南九州市 知覧町 郡 2069-2 (電話) 0993-58-7181		
評価機関名	NPO法人 自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成21年8月10日	評価確定日	平成21年8月29日

【情報提供票より】 (21年7月16日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成19年6月1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	7人	常勤7人 非常勤0人 常勤換算7人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	1階建ての ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	300円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり		円	

(4) 利用者の概要 (7月16日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	2名	要介護2	3名		
要介護3	3名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.7歳	最低	75歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	浮辺医院	朝隈歯科医院
---------	------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市指定の特別区として、医療・福祉ゾーンの中にあり、特別養護老人ホーム・ケアハウス・訪問看護ステーションなどに隣接しているホームである。ホームは敷地内にある複数の施設に訪れる人々との交流や地域の行事に積極的に参加して、利用者の馴染みの人達との交流を維持している。職員は「明るく・暖かい心・笑顔」をモットーに入居者一人ひとりとゆっくり関わり、心と体のケアに努めている。職員の真摯な取組みが入居者の穏やかな表情と落ち着いた暮らしぶりに表われて、家族等との信頼関係を築いている。法人の地域交流室を生かし、住民との交流を密にしながら地域密着型サービスの充実を目指している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	外部研修は段階に応じた研修に参加し、研修報告を行い職員は共有している。内部研修は法人内の事業計画の中に組み込まれて勉強会に参加しており、課題は改善している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義を理解し、前回の改善課題も含めて全員で評価に取り組み、ケアに対する点検を行いながら改善し、サービスの質の向上に活かしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議は定期的開催され、事業所の取り組み状況や外部評価など報告している。ヒヤリ・ハットの報告から意見が出て、骨折事故防止のため、離床センサーを設置して事故防止に繋がっている。機能訓練についての助言に対しては、専門家による訓練を実施し、改善と質の向上に活かされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見箱を設けたり、来訪時や行事参加時に意見や要望の出しやすい雰囲気作りがなされている。また職員側から問題点を提出して思いを聞き運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の菜の花まつりやポニーレースの行事に出かけたり、敷地内にある老人ホームで行われる老人会・クリスマス会の行事に訪れる幼稚園児や地域の人々との交流も行われている。また小学校教師の体験学習なども受け入れており、地域との連携は密である。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義と慣れ親しんだ地域で、その人らしく暮らせる支援を職員全員で確認し、家族や地域の人達との絆を重視した理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を事務所や交流室・玄関に掲示している。管理者は朝礼時やミーティング時に理念を確認し合い、日々のケアに活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の菜の花まつりやポニーレースの行事に出かけたり、敷地内にある老人ホームで行われる敬老会・クリスマス会の行事に訪れる幼稚園児や地域の人々との交流が行われている。また小学校教師の体験実習なども、受け入れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解し、前回の改善課題も含めて全員で自己評価に取り組み、ケアに対する点検を行いながら改善し、サービスの質の向上に活かしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は定期的開催され、事業所の取り組み状況や外部評価等、報告している。ヒヤリ・ハットの報告から意見が出て、骨折事故を防ぐため離床センサーを取り付けることとなり、事故防止に繋がるなど、改善と質の向上に活かされている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	定期的に便りを届けたり、市の担当者が時々来訪して入居者の暮らしぶりを見学している。事業所の運営やサービスについて気軽に相談できる関係を築いている。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	定期的に発行しているホーム便りや月次報告を送付したり、来訪時には心身の状況や暮らしぶりを報告している。金銭管理は出納帳を閲覧してもらいサインをもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設けたり、来訪時や行事参加時に意見や要望の出しやすい雰囲気作りに心がけている。また職員からの問題点を提起して思いを聞き、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員・入居者・家族等馴染みの関係を重要視したケアを心がけており、異動や離職を控える努力をしている。やむを得ない異動の場合には、入居者へ工夫をしてダメージ予防に努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は段階に応じた研修に参加し、研修報告を行い職員は共有している。内部研修は法人内の研修や勉強会に参加している。またホーム内のミーティング時にも課題を設けて勉強会をして、職員の資質向上に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区のグループホーム協会に加入しており、勉強会や交流会への参加がされている。		職員間で相互訪問して交流するなどして、サービスの質を向上させていく取り組みが求められる。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者には自宅や病院を訪問し、本人と面談したり家族・主治医から意見を聞いている。また見学をしてもらい、ゆっくり話し合える時間を設けて信頼関係を築き、不安なく入居できるように取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は菜園・掃除・料理・漬物づくりなどの日常活動を一緒に行い、楽しかったことや苦労話など、入居者に教わりながら、支え合って生活している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で心身の状況や言動、表現、ジェスチャー等を観察し、家族の協力を得ながら思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の要望を基に心身の状況や本人に関わる関係者の意見などのカンファレンスを行い、本人本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しと入居者の状態変化や退院時にカンファレンスを行い、評価結果をもとに現状に即した見直しを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制をとっている。本人や家族等の要望に応じて病院受診や特別な外出・外泊等、必要な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族等が希望しているかかりつけ医の受診や往診が継続できるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームが支援できる方針を明確化し、家族・職員も共有できるように準備している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の意識向上を図るため、関わり方について、申し送り時に時間を設けて話し合っている。入居者の誇りやプライバシーを損ねないように声かけや対応に留意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	料理の下ごしらえ・洗濯物干しやたたみ・掃除・レクリエーション活動などの生活リズムと身体状況を大切にしながら、本人の希望や状況に応じて柔軟に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	買物や調理の下ごしらえなど、一緒に行いながら、職員も同席して食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望や体調に合わせて入浴の支援をしている。さりげない見守りをしながら個別入浴も楽しんでいる。		
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	菜園作業やボール遊び・ミニゲートボール・テレビ視聴・新聞・読書・掃除・調理等、本人の趣味や特技を発揮できるように支援している。また、ドライブや外食・遠足などの希望を聞きながら気晴らしの支援もしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的には散歩や芝生で外気欲を楽しみながら茶話会をしたり、ミニゲートボールをしている。また、近くの農園にも出かけるなど、外出の機会づくりを工夫し、閉じこもらない支援に努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の細やかな見守りで、一人ひとりの行動を把握しており、鍵をかけずに自由な暮らしができるように支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導のもと、消火・避難訓練を法人施設と一緒に行っている。また、緊急時の連絡網や防災組合も完備されており、水害訓練も実施している。備蓄は法人に準備されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事摂取量を個別に記録して、一人ひとりの状態に応じた摂取量の確保ができるように支援している。身体状況に応じて食事形態を変えている。栄養バランスは栄養士のアドバイスをもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は明るく、広いホールの中は温度や換気に配慮が行き届いている。慣れ親しんだ季節行事の装飾や家具類に囲まれて、入居者は居心地よくゆったりと過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンス・ベット・テレビ・椅子・寝具など使い慣れた物品や位牌・家族写真等が持ち込まれている。また離床センサーやナースコールも設けられており、入居者は安心して生活を楽しんでいる。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。